

シンポジウム

「お産をめぐる喪失と生きがい」

日時：2011年7月29日（金） 10:00～16:30

場所：東京大学本郷キャンパス山上会館2階大会議室（定員150名）

申込：以下のホームページから7月26日（火）までにお申し込みください

<https://ssl.formman.com/form/pc/75Ur61K4p131Ecf9/>

定員に達ししだい申込受付を終了いたします

「東大死生学 今後の予定」で検索

趣旨：世界的に新生児・乳児死亡率がもっとも低い国の一つといわれる日本ですら、流産、死産、新生児死亡を完全に防ぐことはできない。また、人工妊娠中絶も年間20万件以上発生しており、苦渋の選択を迫られるものも少なくない。このように、お産をめぐる喪失は無視できないにもかかわらず、当事者のグリーフ（悲嘆反応）は認識されないか、過小評価されがちである。人知れぬ苦悩を抱える彼らが、再び生きがいを見出して歩みだすために、臨床家、家族、友人、そして社会は、いかに支えることができるのだろうか。本シンポジウムでは、グリーフ研究の第一人者であるダーシー・ハリス教授にご講演いただき、その後パネリストも交えて、死生学、助産学、産科学、看護学、民俗学、宗教学など、学際的な観点から、お産をめぐる喪失と生きがいについて議論する。

プログラム

10:00～10:05 開会のあいさつ 山崎浩司（東京大学大学院人文社会系研究科）

10:05～10:10 基調講演者紹介 鈴木剛子（グリーフ・カウンセリング・センター）

10:10～12:10 **基調講演** **ダーシー・ハリス**
(**西オタオ大学キングス・エバージェンティ・カレッジ**)
生殖をめぐる喪失とグリーフ



12:10～13:30 昼食

13:30～13:55 第1報告 太田尚子（静岡県立大学看護学部）
お産をめぐる喪失－日本での体験者と医療者へのサポート

13:55～14:20 第2報告 鈴木由利子（東北学院大学）
選択される命－子どもの死と誕生をめぐる民俗

14:20～14:45 第3報告 竹内正人（東峯ヒューマンズドケアセンター）
喪失と生きがいをサポートする産科学へ

14:45～15:05 休憩

15:05～15:20 第1コメント 山崎あけみ（上智大学総合人間科学部）

15:20～15:35 第2コメント 島藺進（東京大学大学院人文社会系研究科）

15:35～16:25 ディスカッション

16:25～16:30 閉会のあいさつ 上別府圭子（東京大学大学院医学系研究科）

主催：文部科学省科学研究費補助金事業「「生きがい感」を高める教育の開発と科学的評価」研究班

共催：グリーフ・カウンセリング・センター

聖路加看護大学ペリネイタル・ロス研究会

東京大学大学院人文社会系研究科死生学・応用倫理センター上廣死生学講座

協賛：東京大学グローバルCOEプログラム「死生学の展開と組織化」